

2013年度第二回物理学科談話会

「医学物理学への招待」

洞口拓磨 特任准教授

立教大学理学研究科

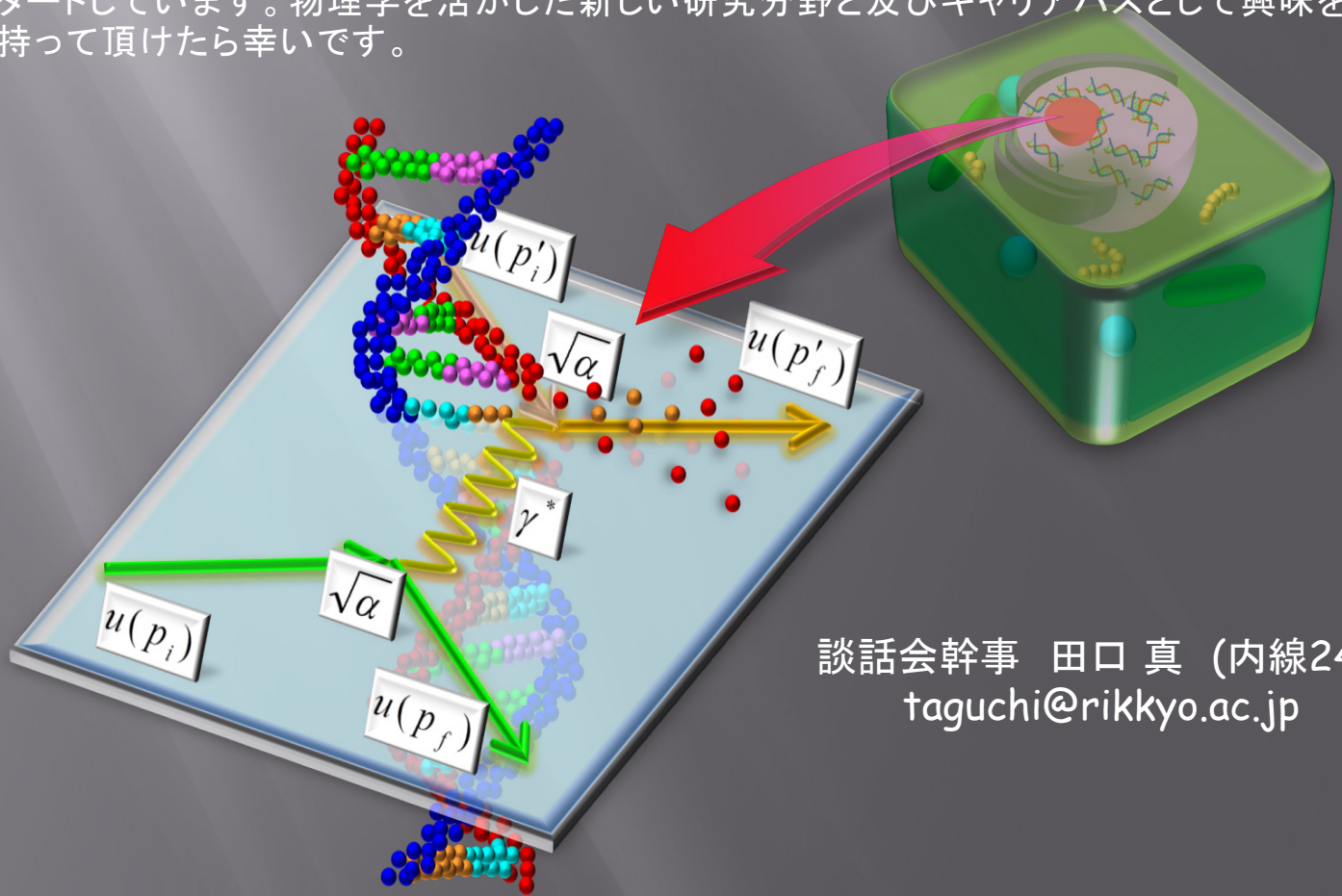
日時：2013年6月21日（金）18:30~19:30

場所：太刀川記念館 3階 多目的ホール

近年、陽子線や炭素線を用いた粒子線治療と呼ばれる高精度放射線がん治療が非常に注目を浴びています。そのような急速に進歩する先進医療の現場では、新しい技術への対応に追われており、物理学の素養を持ったより汎用性の高い医学物理士という新しい職種が極めて重要視されるようになってきました。基礎科学出身者の経験を活かした明確な社会貢献という意味でも、新しいキャリアパスとして広く認知されてきています。

医学物理学は、医学と物理の融合のように捉えられるかもしれませんが、放射線が生物に与える影響は、放射線の入射における物理過程から化学過程・生化学過程・生物過程を経て、ようやく臨床的な影響を垣間見ることができます。このように医学物理学を学習・研究するためには、実に多くの学問分野にまたがった広い視野と深い知識が必要です。社会に貢献するという視点が、単に応用という言葉では片づけられないほどの基礎科学の積み重ねを要求しているということを医学物理学の紹介を通してお伝えできればと思っています。

立教大学では、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの元、医学物理教育に力を注いできました。更に本年度からは全国初となる理学部内の医学物理研究室がスタートしています。物理学を活かした新しい研究分野と及びキャリアパスとして興味を持って頂けたら幸いです。



談話会幹事 田口 真 (内線2415)
taguchi@rikkyo.ac.jp